

ISSN 0289-8144

なきごえ

6

JUN.

2000



CONTENTS

New Face	シシオザル	大野尊信	②
	動物とわたし	杉山吉秋	③
カバーウォッチング	ホオジロカンムリヅル	大野尊信	
	トキが舞う日	金子良則	④
	ナベヅル紀行	高見一利	⑥
グラフZOO	サバンナゾーン予告編	高見一利	⑧
キーパーズアイ	ゾウのごはん	油家謙二	⑩
	ZOO DIARY	高見一利	⑪
	ZOO INFO	坂本全 松岡秀和	



New Face

シシオザル

(サル目 サル科)

4月11日に生まれました。男の子です。人工哺育をしています。公開は未定ですが順調に育っています。

(撮影・文：大野尊信)

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

杉山吉秋 さん

(特別養護老人ホーム職員)



伴侶動物のいる老人ホームの生活

六 甲連山の東端におわんをふせたような形をした小さな山があります。西宮に住む人たちに昔から親しまれている山、『甲山』です。この老人ホームはその西の山すそにあり、イノシシ、タヌキといった野生動物、メジロやヒヨドリ等の山野の鳥や野良猫がホームの近辺によく現われ、ホームで生活している高齢者の方のなかには親しい人に会えたかのようにとても嬉(うれ)しそうな表情を見せながらイノシシや野良猫に餌を与え生活をしています。

野 良猫に餌を買い求め世話を始めて数年がたつというFさんのお話しに耳を傾けてみました。

「初めのころは、ミケのミーコが一匹で餌を食べに来たの。そのうちこどもを産んで、ミーコは子猫の寝間に餌を運んでいたが、少し大きくなったころに餌のある所に連れてきて、いまでは一緒に食べているのよ」「子猫は三匹産まれたみたいだが、一匹いなくなり、いまは二匹。一匹は毛の色が白いからシ

ロちゃん、もう一匹は身体が小さいからチィちゃんと言ったの」「シロちゃんは雄、チィちゃんは雌なの」「餌を食べている猫を見ていると頼ってくれているんだと思うの」「また猫を見ているとね、気が落ち着き、モヤモヤとした気持ちもおさまるのよ」「助けられているところがあるのよね」とベッドで臥床(がしょう)したまま楽しそうに話をしてくれたFさんの姿の中に、猫がFさんの心の中に溶け込む何かを持ち合わせ、不思議な交流が生まれることによって、単調になりがちなホームの生活に変化をもたらし、時として沈みがちな気持ちを癒(い)やしてくれている存在なのだと思います。

常 日頃身近に接する職員として、今後信頼感に基づく安定した人間関係の中での援助と心の支え(心の杖)になってくれる動物との関わりがあいまって、高齢者の生活が豊かになるよう支え、見守っていただろうと思っています。

(すぎやま よしあき)



ホオジロカンムリヅル

ツル目 ツル科 *Balearica regulorum*

アフリカ原産の小型のツルです。頭の上のカンムリが特徴で多くのカメラマンのモデルになることがあります。

(撮影・文：大野尊信)

Cover Watching

佐渡トキ保護センター 金子良則

はじめに

平成11年5月21日、午後3時30分。佐渡トキ保護センターで1羽のトキのヒナが誕生しました。佐渡で最後にヒナが生まれたのが昭和49年ですから、実に25年ぶりになります。もちろん飼育下でのヒナの誕生は日本で最初になりました。そこで、ヒナの誕生から今日までの様子と、佐渡トキ保護センター及び中国のトキの現状について、そして最後にこれからの課題について紹介したいと思います。

トキ「優優」の誕生

平成10年11月に中国の江沢民主席が来日し、日本国民への友好の証として、トキを1つがい



1999年5月21日 孵化直後のヒナ

贈呈されることになり、翌年1月30日、中国から雪の積もる新潟に到着しました。

贈られたトキの名前は「友友」(ヨウヨウ、♂)と「洋洋」(ヤンヤン、♀)と言って、3歳になる若いトキがいました。時期がすでに繁殖期に入っているため、最初の年の繁殖はむずかしいかもしれないと思いましたが、意外とすんなり環境になれてくれました。

トキは通常、1回の産卵で1日おきに3個から4個の卵を産みます。今回は予想より少し遅れて4月22日に第1卵、4月24日に第2卵を産卵しました。しかし、その後産卵が止まり、4月28日には、突然1つの卵を巢の外に放り出してしまいました。そこで、すぐに残った卵を巢から取り出して卵器に入れることにしました。検査したところ、残った卵は有精卵であることが分かりほっとしました。

その後、2個の卵を生みましたが、1つは途中で発育が止まり、もう1つは無精卵でした。たった1つの卵にみんなの期待が集まりました。

5月20日の未明には「ハン打ち」といって、卵の中のヒナが卵を割り始めました。そして、36時間後によやく這(は)うようにして卵から出てきました。日本で初めての人工孵(ふ)化によるヒナの誕生です。センターの周りでは大勢の報道関係者が集まって、今や遅しと待ちかまえていました。

今度は生まれたヒナを立派に育て上げなければなりません。トキのように晩成性(いわゆる赤子の状態で生まれる)のヒナは育てるのが大変です。温度と湿度に気を使いながら、餌は中国で成功している餌とトキセンターでトキ類のヒナ用に開発した餌を組み合わせて与えました。こちらの心配をよそに、ヒナは順調に育ち、1か月後には体重もほぼ親と同じくらい(1,300g)になり、46日目からは飛べるようになりました。餌も流動食から親と同じ生きたドジョウと人工飼料に変えていきました。

残った課題はヒナの命名と性別の判定でした。環境庁では、全国の小学生のグループから名前を公募することとしました。その結果、大きな反響があり、全国から1万1千通を超える応募が寄せられました。その中から、名前は「優優」(ユウユウ)に決定されました。また性別判定では、抜け落ちた羽根を使ってDNA鑑定したところ、雄と判定されました。

現在「優優」は順調に育ち、両親の隣のケージで元気に飛び回っています。来年には中国からお嫁さんをもらって繁殖することが期待されます。



1999年10月 成長した「優優」



佐渡トキ保護センターの飼育ケージ

佐渡トキ保護センターの概要

佐渡トキ保護センターは昭和53年に文化庁(現在は環境庁)と新潟県によって設立されました。場所は佐渡の新穂(にいほ)村の人里から離れた山中で、野生のトキの餌場だったところでした。そこで野生のトキの生態の観察・調査と共に傷ついたりしたトキの保護・飼育を目的に建設されました。

太平洋戦争後、野生のトキの数は一時4羽にまで減りましたが、保護対策によって、昭和47年には13羽まで増えました。しかし、その後は減少の一途をたどり、昭和58年には最後に残った5羽を一斉捕獲し、トキ保護センターで繁殖を試みることになりました。センターでは動物園を始め多くの機関の協力により、様々な努力を続けましたが、トキを増やすことはできませんでした。

平成5年には、新しいセンターに移転しましたが、2年後には日本産最後の雄の「ミドリ」が中国の雌のトキとペアリング中に死亡して、日本のトキの血統が絶えることが確実になりました。

現在、日本産のトキは高齢の「キン」(メス33歳)だけになってしまいました。しかし、日本のトキも中国のトキも同じ種(学名ニッポニア・ニッポン)ですから、中国と協力してトキの繁殖を進めています。

今年のトキ繁殖経過 (平成12年5月26日現在)

今年は第1回目の産卵が4月9日から13日にかけて3個みられました。全てふ卵器に入れ人工ふ化させたところ、うち1つは無精卵でふ化しませんでした。5月8日には1羽目のヒナが、2日後の10日には2羽目が無事ふ化しました。この2羽のヒナは人工育雛(いくすう)で順調に育っており、まだ歩くことができませんが、体重はもう1kgにもなりました。2回目の産卵は4月25日から始まり、4個の産卵がみられました。5月8日に検卵したところ、4個とも無精卵でした。その後、3回目の産卵が5月19日から21日、23日と2日間隔でみられています。親にまかせるか、人工育雛で人の手で育てるか、現在検討中です。今年も順調に育ってくれることを願わずにはおられません。

中国のトキの概要

中国でも一時は絶滅したとされていました。1981年に陝西省(せんせいしょう)の洋県(やうけん)という山村で7羽のトキが再発見されました。ちょうど日本では最後に残った5羽のトキを一斉捕獲し、日本から野生のトキがいなくなった年でした。

中国では、日本の経験や失敗を参考にして、野生での保護を最優先としています。その結果、7羽から現在では約100羽にまで増えました。さらに、北京動物園や現地洋県にあるトキ救護飼養センターでは飼育下での繁殖に取り組んでいて、現在では北京動物園で22羽、救護飼養センターでは75羽を飼育しています。

今年も野生では25つがい、救護飼養センターでも20つがい繁殖しており、個体数は順調に増えています。



1997年4月 中国陝西省洋県の三岔河村の野生のトキ。4個の卵を抱卵している

今後の課題

世界で唯一トキの生息する中国でも、野生では1地域、飼育でも2か所に集中しており、伝染病や災害によって全滅する可能性もあります。そこで危険分散のためにも、佐渡を始め、さらに数か所で飼育し、繁殖個体の維持と交流が必要になってきています。

私たちの最終目標は、トキを再び野生に帰すことです。そのためには、トキの数を増やすと同時に、トキの住める環境を回復しなければなりません。時間はかかりますが、問題を一つずつクリアしていけば、佐渡の空にトキが舞う日もそう遠い日ではないと信じています。

(かねこよしのり)

ナベヅル紀行



←天王寺動物園で2年前にふ化したナベヅルのヒナ

のために多くのツルを飼育しています。また、野生のツルの保護にも深く関与しています。ここでは、今後のナベヅルの繁殖計画について打ち合わせをするために訪問しました。国際ツル財団の施設はシカゴからバスで4時間ほどのところにあります。春から秋にかけて施設の一部



米国にある国際ツル財団の「クレイン・シティ」。飼育施設が遠くまで連なっています

を一般公開していますが、訪れたときはシーズンオフで、ビジターセンターなども閉鎖されていました。公開施設とは別に、クレイン・シティと呼ばれる広大な飼育施設を持っています。ここで多くのツルの繁殖に成功しています。決してお金がかかっている豪華な施設ではありませんが、ツルの飼育に関してこれまでに蓄積されたノウハウがあちこちに活かされています。最も力を入れているのがアメリカシロヅルです。この種は一時わずかに十数羽にまで減少してしまいましたが、絶滅まであと一歩のところまで行きましたが、飼育下での繁殖が進められ、野生復帰の段階にまで漕ぎ着けています。ここではナベヅルの繁殖にも成功しています。毎年のように数羽のヒナがふ化しており、今後の繁殖計画を考えても重要な拠点です。

12月には山口県熊毛町八代を訪ねました。瀬戸内海に近いところにある、それほど大きくない盆地です。ツルの保護や研究に携わる人たちの「日本ツルネットワーク」の会議に参加するために訪問しました。八代では江戸時代からツルを保護してきたそうです。その甲斐あって、現在では毎年ツルがやって来る飛来地

「ツル」といえば、北海道にすむタンチョウを思い浮かべる方が多いと思います。頭が赤、首が黒、からだが大変美しい鳥です。掛け軸などに画かれているツルは、まずほとんどがタンチョウです。しかし、日本では他のツルも見ることができます。日本で最も多く見ることができるのは、ナベヅルというツルです。ナベヅルはツルの中でも小型の種で、からだの色も鍋の底のような色と言われる灰色をしています。タンチョウに比べると、あまり見栄えのしないツルかもしれません。しかし、天王寺動物園では今ナベヅルの繁殖に力を入れています。

ナベヅルは、ツルの中では多く見られると言いましたが、ありふれた鳥ではありません。ワシントン条約で最も厳しく取引が規制されている希少動物の一種です。夏にシベリアでこどもを育て、冬を越しに日本にやって来る渡り鳥です。国内で毎年この鳥が見られるのは鹿児島県の出水市周辺と山口県の熊毛町八代の2カ所だけで、これらの地域では特別天然記念物に指定されています。天王寺動物園では、この種の国際血統登録を担当し、繁殖計画を策定しています。世界中の動物園で飼育されているナベヅルの戸籍簿のようなものをつくって管理し、「血が濃くなる」ことを避けるように縁組みを考えるのです。残念ながら飼育されているナベヅルの繁殖成績はよくありません。今はまだ人間が飼育し、増やすことが難しい種です。幸いにも天王寺動物園では一昨年、昨年と繁殖に成功しました。この調子で繁殖に力を入れていきたいと考えています。

今回、ナベヅルを訪ねてあちこちをまわりました。各地の様子を簡単にご紹介しましょう。

昨年11月にアメリカの国際ツル財団を訪ねました。国際ツル財団はツル類の保護、増殖に取り組んでいる組織です。ここでは繁殖

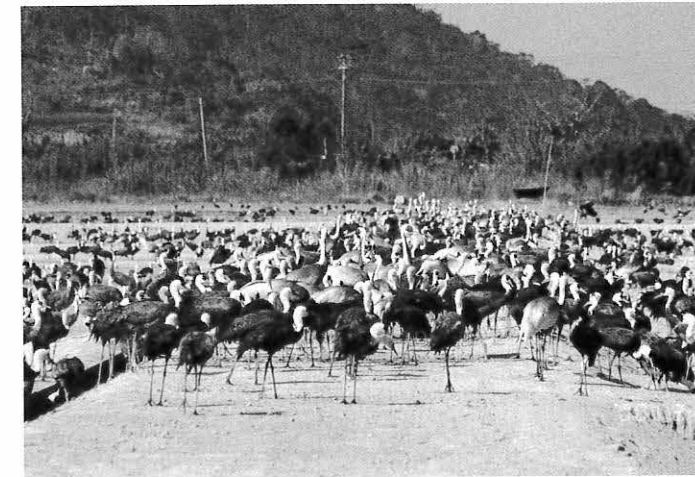
としては本州唯一の場所となっています。しかし、年々その数は減少しています。終戦時には200羽近くが冬を越していましたが、ここ数年は20羽前後となっています。ツルは両親と、前のシーズンに生まれた1羽から2羽の幼鳥で家族をつくり行動します。今回訪問したときには、4家族16羽のナベヅルが滞在していました。何とかツルの飛来数を減らしたく



八代の小学生による鶴の舞い

ない、さらに多くのツルに八代で冬を越してもらいたいという地元の人たちの気持ちは強く、給餌や立入禁止区域の設定はもとより、ツルが毎晩寝床とするねぐらの整備や、ツルを呼び寄せて安心させるためのデコイ（ナベヅルの実物大の精密模型）の設置も行っています。会議にあわせてツルの慰霊祭も行われ、小学生が「鶴の舞」という踊りを披露してくれました。このような熱意のおかげで、これまで毎年ツルが冬を越す地として八代を選んできたのでしょうか。しかし、圃(ほ)場整備など、開発の波はここにも徐々に押し寄せているようです。

今年の2月終わりに、鹿児島県出水市を訪ねました。鹿児島から北西に車で3時間ほどの、海沿いにある町です。今回は、ナベヅルの遺伝的な調査を行うために訪ねました。ここはおそらく世界中で一番人口密度ならぬツル密度が高いところでしょう。1万羽以上のツルが出水市周辺で冬を越します。ナベヅルが最も多く、7～8割を占めます。残りのほとんどがマナヅルで、ごく少数ですがクロヅル、アネハヅル、ソデグロヅルなども見ら



出水の給餌場のようす。ナベヅルとマナヅルが見られます

れます。ここでも人が給餌を行っており、冬場は広い干拓地がツルのために借り上げられます。給餌場に集まるツルはラッシュアワーの地下鉄内さながらにひしめき合っており、その光景は圧巻です。毎日多くの観光バスが給餌場の前の観察センターにやって来ます。ツルは観光資源としても重要な役割を果たしているのです。出水で冬を越すツルの数は年々増加しています。中国や韓国にある越冬地が開発によって減少していると聞きますが、そのために出水に移って来ているのかもしれませんが。近年では世界中のナベヅルの9割以上が出水に集まってきています。万一ここで伝染病などが発生すると、ナベヅルの存続にとって壊滅的な影響を与えることが心配されます。多くのツルが集まっていると喜んではいられません。自然な状態でないことは確かです。

野生のナベヅルが健全な状態で、安定して生息できれば、それに越したことはありません。しかし、日本で2カ所しかない生息地である八代、出水ともに、手放しに安心できる状態ではありません。動物園が今後、この種のために貢献できるよう飼育技術を高め、研究を進める必要があると感じています。天王寺動物園では今後も積極的に関与したいと考えています。

サバンナゾーン

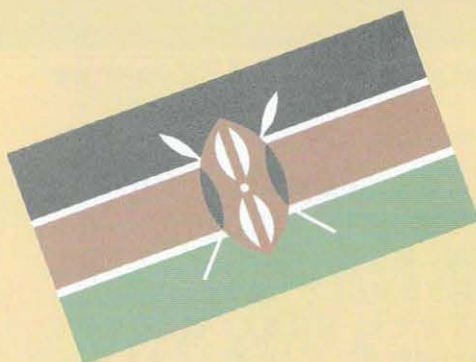
～予告編～



この春、新しい動物展示ゾーンが完成しました。アフリカサバンナ区草食動物ゾーンです。ここでは、キリン、シマウマ、エランドやダチョウなどの大型動物をはじめ、フラミンゴ、マンギースなどをご覧いただけることになります。

ただ今、動物の引っ越し作業や、動物を新しい環境に馴らす練習を進めています。オープン間近のサバンナゾーンを一足お先にご案内しましょう。

飼育課 高見 一利

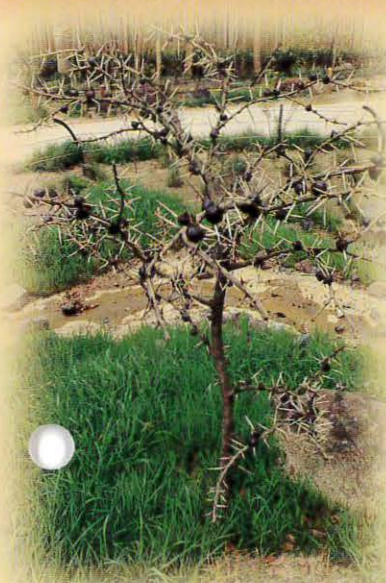


ここは天王寺動物園内にできた異空間アフリカのサバンナにある“ンザビ国立公園”です。さあ、入園ゲートの門が開きました。カメラの用意はできましたか？では、出発しましょう。



まずは国立公園のレンジャーからの報告板を見て動物が目撃された場所をチェックしましょう。

JAMBO!



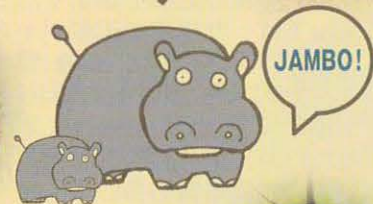
とげ
棘だらけの
アカシアの
幼木 (レブリーカ)
もあります。



だれが
歩いた跡が
わかりますか？

足跡をたどれば...

れ木橋を渡って
進みましょう



岩の上で
日光浴しているのは...
ナイルオオトカゲ!?



かわった形の巣を作る
ハタオリドリ
も飛んで来ています。
(レブリーカ)

ゾウのごはん いただきます

皆さんは、自分が1か月にどのくらいの食事をとっているか知っていますか。

私も自分自身1日に食べている量すら知りません。しかし、動物園で飼育されている動物の場合は、その担当者によって、健康管理のために毎日のエサのメニューや量がきちっと記録されていたりします。

アジアゾウの場合、大きく分けると人間と同じように、朝、昼、夕と1日3回エサを与えます。朝とお昼は、牧草をそれぞれ5~10kgずつ与え、夕方に各ゾウが自分の部屋に帰ってから、主なエサを与え、時間をかけてゆっくり食べられるようにしています。その内容としては、サツマイモやジャガイモ、ニンジンなどの根菜(こんさい)類や、干し草、ササ、ゾウ用の人工飼料など、毎日十種類ぐらいのものを与えています。それ以外にも、ゾウのお腹の調子が悪い時には繊維質の多い木の枝や葉を与える時もあります。

また、冬期の寒さ対策として、11月頃から次の年の3月頃まで、米ぬかを与え、体力と脂肪をつけさせ、寒さに耐えることができるようにしています。

明日から
ダイエット!



さて、最初に問いかけた食事の量についてですが、当園のゾウの体重はおよそ4,000~4,500kgあり、1日にだいたい80kgほどのエサを食べます。そして、1か月では夏と冬で多少の違いはありますが、2,500kgほどの量を食べます。ゾウのスケールの大きさがわかりいただけましたか。



アジアゾウ(春子)の 1か月の餌の量

単位 kg	夏	冬
	'99.8月	'00.1月
サツマイモ	300	310
ジャガイモ	390	403
ニンジン	210	217
リンゴ	155	155
干し草(スーダン)	285	530
牧草	621	630
人工飼料	49.6	73
白菜	293	—
広島菜	28.5	—
ササ	7.7	6.9
カシの葉・枝	4.5	4.5
フルーツ	2	2.4
ねり餌	—	96.2
合計	2346.3	2428

(飼育課：油家謙二)

- 4/8 ●当園飼育係によるお話“爬(は)虫類生態館の裏表”を開催しました。
- 4/9 ●園長によるお話“動物不思議発見”を開催しました。
- 4/10 ●昨年生まれのグラントシマウマを広島市安佐動物公園に移しました。
- 4/11 ●シシオザルにオスの子供が1頭生まれました。親が面倒を見なかったため、人工哺育を行うことになりました。



れました。親が面倒を見なかったため、人工哺育を行うことになりました。

- 4/14 ●クロサイが交尾しました。
- 4/14 ●オウサマペンギン、イワトビペンギン、マカロニペンギンを室内冷房舎に移しました。これから秋までの間は涼しい冷房舎内で過ごします。
- 4/16 ●当園獣医師によるお話“動物園の病院紹介”を開催しました。

- 4/17 ●アミメキリンのメスのサキコを新しく完成したアフリカサバンナゾウのキリン舎へ移送しました。



- 4/22 ●ヒツジのオスが死亡しました。老齢のため数年前から足腰が弱っていましたが、今年に入っても多くの子供を残してくれました。
- 当園飼育係によるお話“コアラ君の一日”を開催しました。

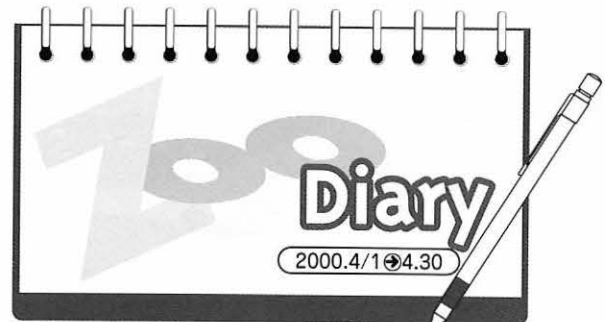
お知らせ

○第26回サマースクール生徒募集中 (募集期間 6月30日まで)

対象 小学4~6年生(2日間連続で参加できる方)
日時 第1組 7月20日(木)・21日(金)
第2組 7月22日(土)・23日(日)
第3組 7月25日(火)・26日(水)
いずれも午前9時30分~午後3時
定員 各組60名(各学年20名)計180名
申し込み
往復はがきに参加希望の組・住所・氏名・保護者氏名・年齢・性別・電話番号・学校名・学年を記入のうえ、下記まで。(はがき1枚につき1名の申し込み)
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-108
天王寺動物園事務所「サマースクール」係



○天王寺公園・動物園写真コンクール作品募集中 (募集期間 8月31日まで)



4/22



●大阪信用金庫から寄贈されたクロサイのブロンズ製ミニチュメントの贈呈式が行われ、お披露目されました。

4/23

●ヒョウモンガメが2頭生まれました。

4/24

●クロツルのメス1羽が名古屋市東山動物園から贈られてきました。検査が終わればツル舎にいるオスとペアを組む予定です。



4/26

●爬虫類生態館アイファーでアオハリトカゲが14頭生まれました。アオハリトカゲは、母親のお腹の中でふ化する卵胎生(らんたいせい)の動物です。

4/27

●兵庫県立コウノトリの郷公園より増井園長他1名が来園しました。

4/29

●「春の動物と花のフェスティバル2000」がスタートしました。5月5日までの連休中、クラフト教室、レクチャー、動物相談、ステージショーなどさまざまなイベントが催されます。

7月の催し

- ☆「動物君たちの一日」朝の展示から夕方の収容までのふたたび見られない様子を、ビデオで担当飼育係がお話をします。
7月 8日(土) チンパンジー君の一日
7月29日(土) ゾウさんの一日
- ☆「ビデオ映画放映」日本昔話のビデオマンガの放映
7月1日(土)・7月15日(土)
- ☆「獣医さんのお話」 7月16日(日)
- 場所：天王寺動物園内レクチャールーム 先着60名様・入場無料
- 時間：午後1時30分
- ☆詳しくは天王寺動物園事務所までお問い合わせください。
(TEL 06-6771-8401)

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店



子どものずかんシリーズ

① どうぶつえん

26.5×21cm 各巻定価 本体1,000円(税別)
全国学校図書館協議会選定

動物園にはいろんな動物を見ることができます。ただ、単に見るだけではなく、その動物の特長や生態、何を食べているか、またその仲間たちはどんなものがあるかがこの本でわかります。さあ、この本を持ってもう一度動物園へいってみよう。

お求めは、お近くの書店で。

ひかりのくに株式会社 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 TEL.06-6768-1151代表



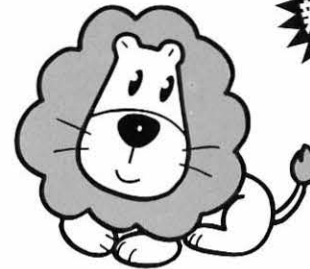
マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856 大阪府豊中市穂積1-10-30
(株)増田食品 TEL (06)6865-0165

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information



新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリム
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも運動、見たままのフレームでパチリ。

かろうの大林

桜橋本店 ☎6341-8091
阪急三番街店 ☎6372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子[編著] ●新刊
3,500円+税 ●限定1000部
狼と猫の生態を研究し、動物文学をはじめて世に紹介した平岩米吉の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を娘の眼から深く描く。
夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわせ、動物画家・大崎善司、日本好きのスタール博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼
●2刷出来 2,500円+税

犬の生態
●6刷 2,000円+税

犬の行動と心理
●4刷 2,000円+税

私の犬
2,200円+税

猫の歴史と奇話
2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]

174,757円+税 ●限定300部(分売不可)
南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

築地書館 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL03-3542-3731 FAX03-3541-5799 (送料一律400円)
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address= JDH07647@niftyserve.or.jp

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



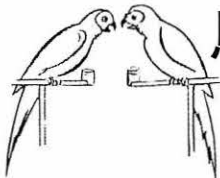
オールカラー
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)6771-0201



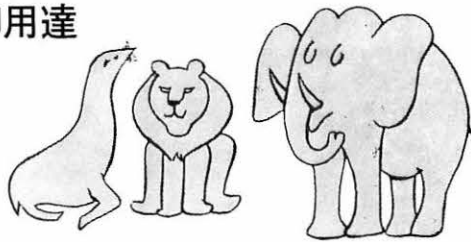
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. <コカ・コーラ指定会社>
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話06-6762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL06-6771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-6771-7110



天王寺動物園 MAP

天王寺公園



阪神高速松原線

動物園入口

- 入園料 動物園/大人500円 公園/大人150円 中学生以下、65歳以上無料
- 開園時間 午前9時30分～午後5時(入園は4時まで)
- 休園日 毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は翌日休園)

大阪市天王寺動植物公園事務所 〒543-0063大阪市天王寺区茶臼山町1-108 TEL.06-6771-8401

365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままに、カルシウムの量を600mg（成人1日あたりの所要量）までアップさせた。雪印毎日骨太、日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



雪印毎日骨太

300ml・100円／希望小売価格（税別）



一日、愉快地 たのしめる

◎園内2カ所（中央デッキ下・南園高架下）に、各種のりものがあります。



ほんとに
楽しいネ!



中央デッキ下



南園高架下

久竹娯楽株式会社
TEL (06) 4397-0100 (代)

編集委員

中尾啓一/中川哲男/石井 等/藤田四郎/沖田紀行/山崎道正/長瀬健二郎/谷森 進/橋本泰幸/森本委利/高橋雅之/市川久雄
竹田正人/高見一利/西 康弘/田中 龍治/溝 勇二/松岡秀和/坂本 全/森岡伸晃/野口秀高/大野尊信/早川 篤/西村慶太/油家謙二